

「YCU病院経営プログラム」 令和5年度 事業報告書

- ・文部科学省
「課題解決型高度医療
人材養成プログラム」採択事業
(2017年度～2021年度)

- ・厚生労働大臣指定
専門実践教育訓練講座

- ・文部科学省
職業実践力育成プログラム認定



都市型地域医療を

先導する

病院変革人材育成



横浜市立大学

横浜市立大学医学研究科・国際マネジメント研究科
附属病院・附属市民総合医療センター

伝統と革新の、その先へ

1928 - 2028

文部科学省選定「都市型地域医療を先導する病院変革人材育成」採択事業

横浜市立大学「YCU病院経営プログラム」事業概要

学長ごあいさつ



横浜市立大学学長
相原 道子

横浜市立大学は、附属病院、附属市民総合医療センターという2つの大規模病院を有し、これまで高度な先進的医療のみならず、政策的医療提供など地域の安定的な医療に寄与してきました。一方、日本の社会は待った無しの少子高齢化社会に加え、令和2年からは新型コロナウイルスのパンデミックに見舞われ、地域から求められる医療はさまざまな課題を抱えつつ、急速に変化しています。大学病院においても例外ではなく、あらゆる変革が求められています。

そのような中、横浜市立大学は、2017年度文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択され、2018年度から社会人大学院履修証明コースである、「YCU病院経営プログラム」を開設いたしました。医師、看護師、その他コメディカル、事務管理職、医療行政職という幅広い方々を対象に年々履修生を増やし、2023年度は26名の履修生をお迎えすることができました。実践的なケーススタディや各自の課題に取り組む特別研究を中心とし、医学研究科、国際マネジメント研究科、データサイエンス研究科、附属病院、附属市民総合医療センターの5拠点で展開しています。修了生はそれぞれの部署において、研究や学習の成果を病院経営に活かすとともに、このプログラムが毎年公開しているシンポジウムや公開授業等も利用して、ネットワークを広げています。

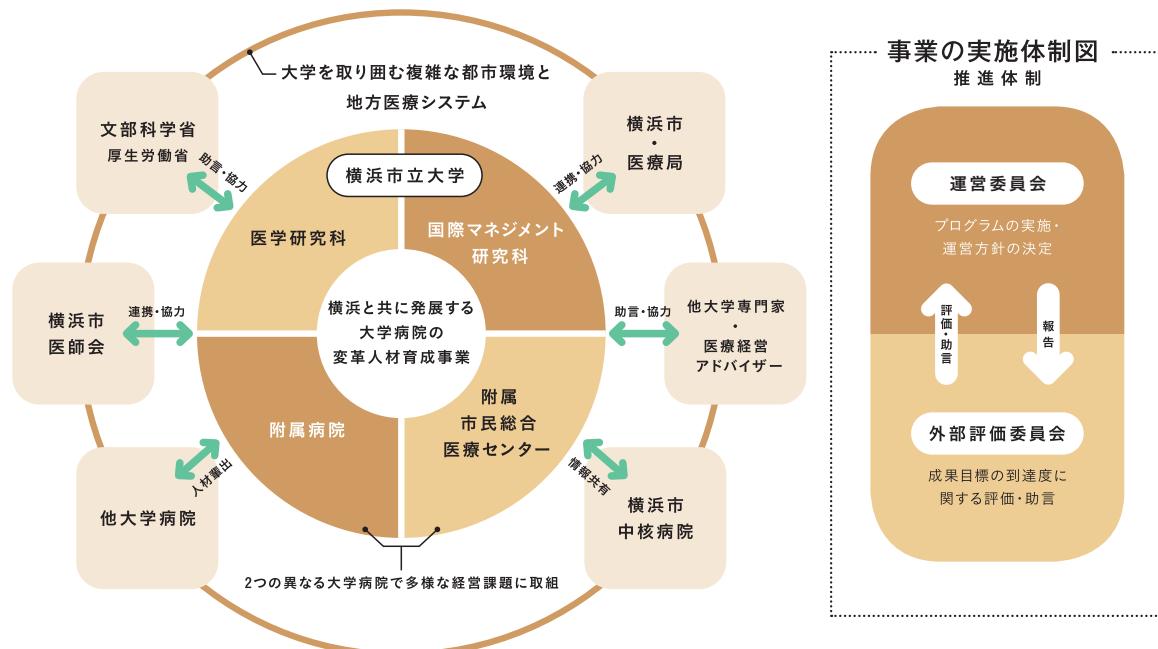
なお、文科省補助金は2021年度で終了しましたが、本プログラムは文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)および厚生労働省の専門実践教育訓練給付制度の対象プログラムとして認定され、今後も継続できることとなりました。

次世代を担う新たな病院経営人材が育っていくよう、横浜市医療局や横浜市医師会、病院協会等とも連携しながら、大学として強力にプログラムを推進していきます。

事業概要

都市型地域医療を先導する、病院変革人材を育成するために

横浜市立大学内体制図



事業責任者ごあいさつ



急速な高齢化に加え、2020年度からは新型コロナウイルスのパンデミックにより、医療は様々な新たな課題に向かっています。一方、医療・介護財源である社会保障費や税金の扱い手は減少の一途をたどり、医療提供や人材育成にも、新たな発想が求められます。

本プログラムは、e-learning、研究会、シンポジウム、ケースディスカッション、特別研究など多彩な教育機会を用いて、大学病院を始めとする医療機関の健全経営を担保し、あるいは政策立案に資するために、下記の資質を備えた人材の育成を行います。

◇ 医療安全や病院管理等の基本的資質に加え、地域毎の医療環境の中での自院の戦略的ポジショニングを考え、病院を変革する力

◇ 地域の医療・介護システムを構築していく中でリーダーシップを発揮し、病院単独では解決できない経営問題をその地域の行政・医療・介護の扱い手、住民等と協働しながら解決する力

横浜市立大学附属病院
病院長 本事業責任者

後藤 隆久

プログラム実績

履修生受入実績

年度	募集数	履修生数
平成30年度	10名	15名
平成31(令和1)年度	10名	15名
令和2年度	12名	18名
令和3年度	13名	25名
令和4年度	25名	25名
令和5年度	25名	26名



シンポジウムの様子(平成31年4月)

開催シンポジウム、公開授業

年度	内容	参加者
平成29年度	キックオフシンポジウム 「大学病院と地域の病院・診療所との連携と機能分担都市における医療の課題と将来の方向」	109名
平成30年度	公開シンポジウム 「更なる効率化と質保証に対処していくために! -医療ICTの機能拡充と活用-」	115名
平成31(令和1)年度	公開シンポジウム 「修了生による地域医療・病院経営改善に向けた提言」	50名
令和2年度	①公開授業 「横浜市大附属市民総合医療センターの経営改革」 ②公開シンポジウム (1)「働き方改革と医療政策」 (2)「COVID-19パンデミックの中で 病院と地域医療をどう経営するか?」	①44名 ②(1)91名 (2)220名
令和3年度	①公開授業 「ポストコロナの横浜大学メディカルセンター」 ②公開シンポジウム 「ポストコロナの医療経営」	①111名 ②128名
令和4年度	公開シンポジウム 「コロナ対策と今後の地域医療連携のあり方」	100名
令和5年度	公開シンポジウム 「医療とまちづくり」	91名

大学病院長・幹部候補のライセンスとしての履修証明プログラム

「YCU病院経営プログラム」内容※

大学病院長候補者、病院長を補佐する医師・医療従事者、看護管理職候補者、事務管理職候補者、自治体関係者などを対象にした1年間(最大2年間)のコースです。

※「履修証明プログラム」は、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が主として社会人向けに体系的な教育プログラムを開設し、その修了者(120時間以上の履修を完了する者)に対し、学長名の履修証明書を交付するものです。

※令和6年度よりプログラム名を「YCU医療経営・政策プログラム」に変更します。

教育プログラムの育成人物像

1

超高齢社会に対応する日本の医療政策、及び各自治体の実態を理解している。

2

高度急性期医療を使命とする大学病院が今後取るべき戦略や経営管理の方法について理解している。

3

複雑な都市環境における医療・介護・福祉の担い手と連携しながら病院経営を実行・助言できる。

履修プログラムの特徴

安全管理学・ガバナンス

安全管理学は、患者取り違え事故という、日本の医療安全の原点を経験した横浜市大ならではの、安全管理の理論と実行について学びます。ガバナンスは、ケースディスカッション方式で、病院教職員のやりがいをいかに高め、病院の理念や行動規範を浸透させていくかを学びます。



ケースディスカッションの様子

特別研究:ケーススタディ

特別研究は、履修生各人が持っている経営課題について、コーディネーターのマンツーマンの指導を受けて、解決法の提案を行います。これに加え、世界の一流ビジネススクールで用いられているケース教材等を使って、リアルな病院経営についてクラス討議を通じて学びます。これらを通して、履修生が本プログラム修了後も様々な経営課題を解決する基礎力を培うことを目指します。



みなとみらいサテライトキャンパス

Pick Up



Brush up Program
for professional

本プログラムが、文部科学省の職業実践力育成プログラム (BP= Brush up Program for professional)として認定されました!

職業実践力育成プログラム認定制度とは、大学・大学院等におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するものです。

QRコードをかざすと
WEBサイトで
詳細をご覧いただけます



プログラムの内容(令和6年度)(予定)

必修科目内容

医療政策・経営学 7時間	安全管理学・ガバナンス 15時間	特別研究 53時間
医療等の社会課題領域に関する実務者や研究者を招聘した研究会の開催とディスカッションを行う。受講者は、政策の最新動向や経営学に関する実務的・理論的知見を深め、主体的にイノベーションを起こす人材になるとを目指す。	安全管理学では、高信頼産業に学ぶ安全管理、医療事故から学ぶ安全管理、レジリエンス、コミュニケーションについて学ぶ。ガバナンスでは、リーダーシップ、動機付け、コンプライアンスなどについて実際の病院経営に即して学ぶ。	ケースによるディスカッションや、様々な分野の専門家や経営者による双方向授業を通して医療政策・経営学の実践的な理解を深めると同時に、コーディネーターの支援のもと、自ら課題を設定して解決策を立案し、その成果を発表する。
ビジネス・マネジメント 22.5時間	医療イノベーション経営 22.5時間	
マーケティング、経営戦略、人的資源管理、管理会計、サービス・サイエンス、ゲーム理論など経営学/経済学の基礎をオムニバス形式で学ぶ。	医療イノベーション経営では、医療組織の経営戦略や経営資源の開発、マーケティング、医療の質の確保などについて学ぶ。受講生が履修しやすいよう、夏季土日等の休日に集中講義として実施する。	

選択科目内容(1科目まで選択可能)

①臨床統計学 22.5時間	②医学教育学 22.5時間	③看護管理学 22.5時間	④看護政策学 22.5時間
臨床試験でプロトコールを作成する上で必要な統計的手法を学ぶ。臨床研究で実際に用いられている統計手法(検定方法や回帰モデル)を習得する。解析ソフトを用いて講義で得た知識を実際のデータ解析に活用するための実習を行う。	人材育成のための能動的教育手法の実践と専門職連携の観念と教育手法の習得を目的として、イントロダクションの講義後、履修者と共にディスカッションを行う。	看護管理の理論と方法を概観し、保健・医療・福祉システムの変化における看護管理上の課題を明確にし、看護管理者、CNSとして効果的に組織をマネジメントするために必要な知識を学習する。	看護の質向上に向けて求められる看護政策、制度の理念、機能、意義ならびにその展開に必要な知識と技法について今日の社会的背景も踏まえて学ぶ。
⑤ソーシャル・イノベーション 22.5時間	⑥サービス・サイエンス/サービス・マネジメント 22.5時間	⑦ヘルスケア・エコノミクス/ヘルスケア・ポリシー 22.5時間	⑧医療経営分析論 22.5時間
組織を取り巻く社会的な課題について理解を深め、行動経済学やソーシャル・マーケティング等の知見を活用しながら、組織や社会全体にイノベーションをもたらす課題解決型人材の育成を目指す講義。	医療を含む様々な社会・経済活動を、サービスという視点から捉え直し、現状のあり方を解きほぐす分析の枠組みや、新たなサービスをデザインし実践するための方法論を学ぶ。	保健・医療・介護の課題に対する経済学的なアプローチへの理解を深めることをめざす講義。経済学の理論と実証研究をバランス良く学ぶ。	外部環境の補正による病床の将来推計と病院内外のデータ解析を通じてエビデンスに基づく医療経営管理の理解を深めることをめざす講義。 (令和6年度休講)
⑨地域医療政策 8時間			
地域医療政策や医療に関する制度について、E-learningで学習する。			

履修生の声 令和5年度履修生



富山大学 学術研究部医学系
形成再建外科・美容外科 教授 /
富山大学附属病院
手術部 部長
佐武 利彦

診療科、病院の管理に携わる立場となり、新しい知識とスキルを身に着ける必要性を感じ、富山大学から参加させていただきました。どの授業も自分には新しい学びで、インラクティブかつグループ討議も多く、素晴らしい先生方、他職種の同期生らと多様な考えを共有できました。特別研究の演習では、深く掘り下げる指導が初めは難解でしたが、最後は皆で高いレベルの研究が達成できました。皆さん、是非とも本プログラムに参加してください。多角的な視点で医療を見て捉える力が備わります。



横浜市立大学附属病院
医学・病院統括部
医事課
医事請求担当係長
市川 真由子

医療政策や医療経営について基礎から学びたいと考え参加しました。ケーススタディでは、医療だけではなく企業の事例についてディスカッションすることで、様々な考え方を学ぶことができました。履修生は医師が多く、付いていくのが不安もありましたが、自由に意見を言い合える環境のおかげで臆することなく受講できました。本プログラムでの学びを実務に活かし、課題解決に取組んでいきたいと思います。



国立病院機構
横浜医療センター 副院長/
救命救急センター長
古谷 良輔

コロナ禍を乗り切り、自分や自院の立ち位置や方向性について少々煮詰まっていた時にこのプログラムに出会いました。講義で取り上げられるテーマはどれも興味深く、ケーススタディで提示されるさまざまな問題について多様多彩な同期生と行うディスカッションは純粋に楽しかったです。そして各自が医療組織を取り巻く様々な課題に取り組んだ特別研究ゼミでは終始熱心なご指導をいただき、得がたい貴重な経験となりました。何といってもこの1年間で自分自身が完全にリセットされた感覚があり、今後こうありたいというビジョンを語れるようになったことが大きな成果だと思います。

本講受講者の履修をサポートする

本講受講者の履修をサポートする

本学の両附属病院等の現場を活かし、履修生が現場で感じている問題を分析・研究することで、医療経営を実践的に学ぶことができるような様々なサポートを行っています。

■ コーディネーターのサポート

このプログラムの大きな特徴の一つが、コーディネーターによる個別サポートを受けて行う特別研究です。履修生各自のテーマ設定から、データ収集・分析・中間発表・レポート作成まで、医療コンサルタントかつ医療経営学者でもあるコーディネーターが伴走します。履修生は実際の課題に自ら取り組み、解決策を立案、実行します。その結果を年度末に発表し、教員や他の履修生と議論することで、課題解決力が確実に身に着きます。

■ 経済的サポート

本プログラムは厚生労働省の専門実践教育訓練給付制度※の指定講座です。支援要件を満たす方が所定の申請を行うことで、本学に支払う教育訓練経費(受講料)50%～70%を受給することができます。

※本制度は、利用を希望する方が自ら受給手続きを行うものです。制度詳細は、厚生労働省のホームページ、及び専門実践教育訓練給付金リーフレットをご参照ください。支給要件に該当するかどうかの確認や手続きについては、必ず住居所を管轄するハローワークにご確認ください。



厚生労働省教育訓練給付制度

Pick UP

本プログラムと国際マネジメント研究科は密に連携し、大学院科目の開放や指導などを行ってまいりました。本プログラム履修生とのディスカッションはとても刺激的であり、履修生同士や講師との間で、現場の課題と経営学の理論・知見をぶつけ合い、考え方重視な時間になっています。また、このような経験を経た卒業生が、ソーシャル・イノベーションMBA(SIMBA、詳細は下記参照)に進学され、さらなる学修、探求を深められています。実は、SIMBA入学者10名全員が本プログラム卒業生でした(令和5年度時点)。医療経営の重要性が年々高まるなかで、本プログラムとSIMBAが連携し、多くの卒業生を輩出していること、さらに教職員間が学部の垣根を超えて様々な取組に挑戦していることは、他大学にない大きな特長です。本プログラムとSIMBAをさらに発展させるため、より精進してまいります。



～さらに学びを深めるために～

国際マネジメント研究科博士前期課程

ソーシャル・イノベーション修士(経営学)プログラム(SIMBA)のご案内

YCU病院経営プログラムでの学びをさらに発展させたい方のために、国際マネジメント研究科にソーシャル・イノベーション修士(経営学)プログラムSIMBAをご用意しています。

本プログラムは、国際マネジメント研究科で推進してきたサービス・サイエンス研究プログラムを発展させ、特にデータに基づく経営管理手法を用いて社会課題解決をめざす社会人を対象として、経営学・経済学の知識やスキルの習得を目指すものです。社会課題の領域には、一般的なビジネス課題とともに、ヘルス領域、社会福祉領域、その他の公共サービス領域など多数が考えられます。これらの社会的な諸課題に対してデータに基づく経営管理手法のスキルを活かし、地域社会で活躍する修士(経営学)人材を育成します。

※YCU病院経営プログラムで履修する選択科目の一部が申請によりSIMBAプログラムの一部として認められる場合があります。



医療経営・政策研究会(令和5年度)

- 研究会の目的**
- ①医療福祉の財務情報・非財務情報に関する実証的研究を行い、研究成果を効果的・効率的な経営や政策に生かすこと
 - ②行政(横浜市)・事業者・研究者による交流を促進し、知見を深めること

- 開催の目的** 病院・医療従事者の労働環境と生産性について議論し、これからの病院経営のあり方について検討すること

第17回 医療経営・政策研究会

横浜市立大学 国際マネジメント研究科 准教授
SIMBA担当教員 原 広司

日 程 令和5年7月16日(日)

参 加 者 49名

開催時間 10:00～12:30

10:10～11:10 「データを用いた医療現場の運用変革の取り組みについて」

高木 俊介氏(横浜市立大学附属病院
集中治療部 部長
横浜市立大学医学部生体制御・麻酔科学 准教授)
本プログラム・SIMBA修了生

11:20～12:20 「Well-being志向のサービスデザイン」

根本 裕太郎氏(横浜市立大学国際商学部・
国際マネジメント研究科 准教授)
SIMBA担当教員

12:20～ 総括&ディスカッション

第18回 医療経営・政策研究会

横浜市立大学 国際マネジメント研究科 准教授
SIMBA担当教員 原 広司

日 程 令和6年2月17日(土)

参 加 者 43名

開催時間 10:00～12:30

10:10～11:10 「大規模医療データの利活用の実例—民間事業者の視点から」

黒川 大輔氏(株式会社JMDC
医療機関支援事業本部 マネージャー)

11:20～12:20 「大規模医療データの利活用の実例—医療経済学の視点から」

加藤 弘陸氏(横浜市立大学国際商学部・
国際マネジメント研究科 専任講師)

12:20～ 総括&ディスカッション

公開シンポジウム

日程 令和5年8月19日(土)

公開シンポジウム

9:30～12:00

「医療とまちづくり」

講演

1.「観光とスタジアム—観光「と」まちづくりの視点から」

有馬 貴之氏
横浜市立大学都市社会文化研究科 准教授

2.「医療のまちへのアウトリーチ事例と事業を通じたまちづくり」

三宅 邦明氏
株式会社ディー・エヌ・エー
Chief Medical Officer(CMO)・
Chief Health Officer(CHO)

3.「横浜市における“医療とまちづくり”」

原田 浩一郎氏
横浜市医療局長

4.「病院が取り組むまちづくり」

藤井 将志氏
特定医療法人 谷田会 谷田病院 事務長

パネルディスカッション

テーマ
・医療はまちづくりに対して出来ることと課題
・今後、病院が生き残るために求められる取組
・医療が持つ可能性とは?



SIMBA進学者の声

2021年度にYCU病院経営プログラムを受講しました。1年間は新しい発見と学びにあふれる素敵な時間で、特に同期生が専門性や年齢などは違ってもどんどん「仲間」になっていく感覚が大好きでした。さらに経営のことを勉強したいと思うようになりました。2022年度にSIMBAに進学し、2年間の課程を終えて(修士論文の作成含む)2024年春に経営学修士(MBA)になりました。

経営学と聞くと、医療や福祉の専門職としてお仕事をされている方

は、「お金の勘定」という印象を持たれるかもしれません。しかし経営学が扱う領域は無限に広く、ヒト・モノ・カネ・社会の全てが研究対象です。いま身を置く環境で、必ずご自身の研究テーマを見つけることができます(私は病院経営プログラムの特別研究を発展させて、大学院の研究課題にしました)。ご興味があればSIMBAの教員、修了生などにお気軽におたずねください!



横浜市立大学 放射線診断学 准教授

YCU病院経営プログラム 4期生

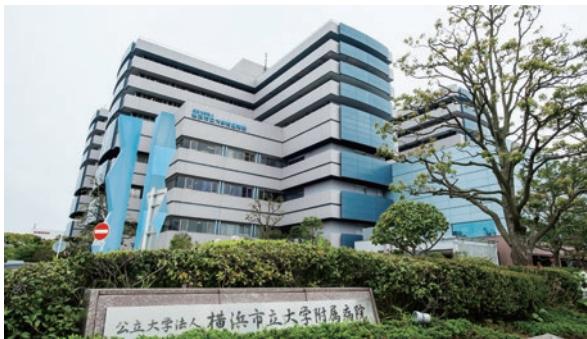
横浜市立大学国際マネジメント研究科

SIMBA 2期生

山城 恒雄

福浦キャンパス・附属病院

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9



金沢八景キャンパス

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2



附属市民総合医療センター

〒232-0024 横浜市南区浦舟町4-57



みなとみらいサテライトキャンパス

〒220-8107 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
横浜ランドマークタワー7階

